

第6章 より活用していただくために

6.1 換気しながら運転する

警告



排気口付近には、物を置かないでください。

ダンパーを開いた状態で運転しますと、排気口から高温の空気が排出され危険です。(排気口位置は、PH(H)-102/202/302 は装置背面、PH(H)-402 は天面です。)

試料を乾燥させる場合、ダンパーを開いて換気運転を行うと槽内の蒸気圧が上昇しませんので、乾燥効率を高めることができます。また、試料の許容する限り、高温下で運転すると早く乾燥します。しかし、ダンパー開度が大きすぎると装置の換気量が大きくなり、高温を維持することができなくなる場合があります。

- ・ダンパー開度と温度調節の可能範囲は、図 6.1 を参照してください。
- ・ダンパー開度と換気量の関係は図 6.2 を参照してください。
- ・図 6.1、図 6.2 の測定条件は、無試料、外囲温度 $23^{\circ}\text{C} \pm 5^{\circ}\text{C}$ 、電源 AC200V です。ただし、機器により若干の差異があります。

◆ お願い ◆

ダンパーを開いて運転した場合は、昇温時間が長くなります。槽内温度を早く上げたいときは、ダンパーを閉めて運転し、設定温度に到達した後にダンパーを開いてください。

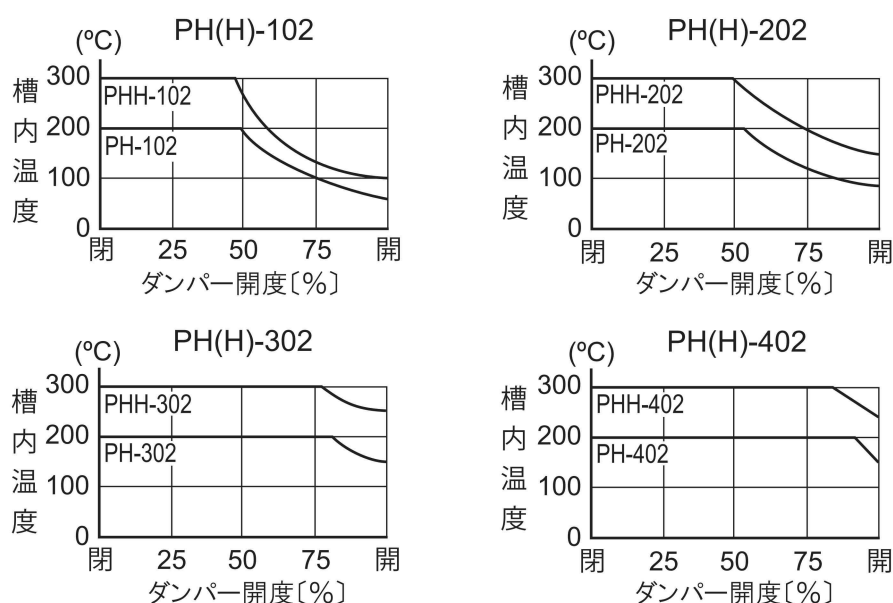


図 6.1 ダンパー開度と温度調節可能範囲

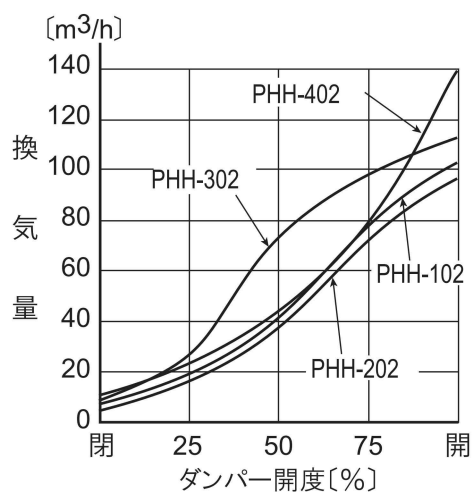


図 6.2 ダンパー開度と換気量